

氏名	池口豪泉
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3462 号
学位授与の日付	平成19年6月30日
学位授与の要件	医歯学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	臓器提供における態度と意識に関わる諸因子の構造解析 — 日米間の比較を通して —
論文審査委員	教授 栗屋 剛 教授 荻野 景規 准教授 猶本 良夫

### 学位論文内容の要旨

質問票調査へ回答の寄せた日本国371人及び米国41人の調査結果を基に、臓器移植について臓器提供の立場から日米比較を行い、特にドナーカード所持に至る要因に関して因子分析、構造分析を行った。その結果以下の知見を得た。

1. 諸因子の日米間比較では、ほとんどの項目で日米間に有意差が認められた。なかでも提供相手による提供意思の相違の有無や、遺体に対する概念の相違が注目された。

2. 脳死に関する知識では日本人のほうが有意にその知識が高かったしかしその一方で臓器提供意思は米国人のほうが高かった。

3. ドナーカード所持に至る因果関係を推定するための共分散構造分析では、米国人においては家族に限らず、第三者への移植を容認する意思が強いことが示された。日米間のドナー数や移植実績の相違を生み出す背景要因として、日本人における「臓器移植に対する賛意」と自分や家族が移植の当事者となった場合の意識の相違、また日米間の、霊魂の存在や遺体観など死生観に関わる意識の相違があると考えられた。この推論は、日米の母集団をより強く反映した標本によって再解析をすることや、その標本集団の追跡調査研究によって裏付けられると考えられる。以上のような構造の違いを考慮した臓器移植議論がわが国では必要である。

### 論文審査結果の要旨

本研究は、臓器提供における態度と意識について日米においてアンケート調査を行い、それを統計学を駆使して分析したものであり、「米国人においては家族に限らず第三者への移植を容認する意思が強い」などの結論が得られている。

今後、調査の母集団を増やし、また、ランダムサンプリングを行うなどした上で研究を継続する必要があると思われるが、諸般の事情も考慮し、本研究によって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があるという結論に達した。